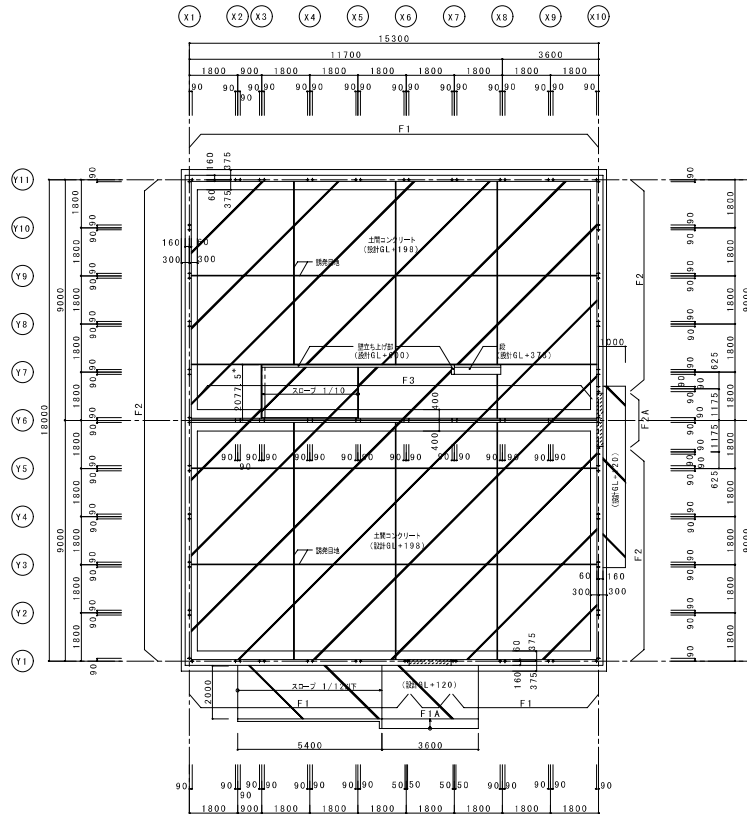


・本仕様の中で選択式の項目は、■を採用して □は採用しない。 ・■であっても上位の項目が□の場合は採用しない。		3. 鉄筋コンクリート基礎工事		4. 鉄骨躯体工事 (1) 使用材料		4. 鉄骨躯体工事 (2) 製作・施工				
1. 構造概要		(1) コンクリート		・鋼 材		・製作工場				
・建設場所 ・工事種別 ・建物用途 ・階数規模 ・屋上荷重 ・特殊荷重 ・増築計画 ・外的条件	静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番1号 ■新築 □増築 □改築 事務所 鉄骨造（プレース構造） 地上平屋建 □空調屋外機 □ソーラーシステム □屋上緑化設備 □ □エレベーター（乗用13人乗り） □小荷物昇降機 なし 風速（V0） 32m/s 地表面粗度区分 □Ⅰ □Ⅱ ■Ⅲ □Ⅳ 積雪 積雪量：30cm 単位重量：20N/m ² ・cm 凍結深度 構造体（用途係数） □Ⅰ類（1.5） ■Ⅱ類（1.25） □Ⅲ類（1.0） 非構造部材 □A類 ■B類 ■新品 □再利用部材 ・令第129条 の2の4の事項	・使用材料	■コンクリートはJIS A5308によるレディーミストコンクリートとする。 ■使用するセメントはJIS R5210によるポルトランドセメントとする。 ■普通ポルトランドセメント □早強ポルトランドセメント	記 号	材 料 名	JIS番号	・製作管理技術者資格 ・製作全般	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。		
・耐震安全基準	・部材の種類 ・令第129条 の2の4の事項	・強度補正	項 目	基礎（構造体）	土間	捨てコン	■一般構造用圧延鋼材 JIS G3101 ■一般構造用軽量形鋼 JIS G3350 ■一般構造用炭素鋼管 JIS G3444 ■一般構造用角形鋼管 JIS G3466	・製品検査内容	項 目	検査内容
			種 類	普通	普通	普通	■寸法精度 寸法、ひずみなどの測定 ■隅肉溶接 すみ肉溶接状況の目視による確認 □部分溶込溶接（異形隅肉溶接） 開先形状、溶接状況の目視による確認 □完全溶込溶接 超音波探傷試験 ■ボルト接合 スプリングワッシャーのつづれ確認 □高力ボルト接合 マーキングのずれ、ピンホール破断の確認			
			設計基準強度（N/mm ² ）	21	18	18	JIS G3138 JIS G3136			
			スランプ	18	15	15	JIS G3136			
		■構造体強度補正値は以下による。（JASS5-2009）								
		気温θ（℃）	打込み日から28日までの予想平均気温		暑中期間					
		早強ポルトランドセメント	0≤θ<5		5≤θ		25<平均θ			
		普通ポルトランドセメント	0≤θ<8		8≤θ					
		補正値（N/mm ² ）	+6		+3		+6			
		・型 枠	型枠の材質：■合板 □金属パネル ■型枠の存置期間を定めるためのコンクリートの材齢は以下による。 平均気温（℃） 10℃以上20℃未満 20℃以上 早強ポルトランドセメント 3日 2日 普通ポルトランドセメント 6日 4日							
		・品質管理	■上記以前に脱枠する場合は、圧縮強度試験を行ない、強度が5N/mm ² 以上に達している事を確認する。 ■コンクリートはJIS認証工場の製品とし、施工は平成25年版公共建築工事標準仕様書による。 ■AE剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5 T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要綱」第4条の試験機関にて行うこと。							
2. 地盤・地業		(2) 鉄 筋		・表面処理		・材料の品質管理				
・地盤調査資料	事前資料：■有り □無し 調査予定：□有り □無し 調査場所：■敷地内 □近隣 調査方式：□スウェーデン式静的貫入試験 ■標準貫入試験 □平板載荷試験 資料確認：□添付の調査報告書参照 30 kN/m ² （長期） □表層 ■GL-0.60m □その他	・使用材料	■鉄筋は、JIS G3112による規格品とする。 ■溶接金網は、JIS G3551による規格品とする。	材 料 名	径	継ぎ手	備 考	・溶接の種類	被覆アーク溶接（手溶接） ガスシールドアーク溶接（半自動溶接） 軟鋼用被覆アーク溶接棒 JIS Z3211 軟鋼及び高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ JIS Z3312 溶接の有効長さ≥10S かつ 40mm以上 溶接の有効長さ=溶接長さ÷2S	
・地盤許容支持力	■直接基礎 ■布基礎 □ベタ基礎 □独立基礎 □地盤改良 □表層改良 □粉体セメント系固化工材位置混合処理工法（□免震抑制型 □六価クロム低排出型） □柱状改良 □スラリー状セメント系固化工材位置混合処理工法（ソイルセメントコラム）	・品質管理	■施工はJASS5（2009）による。 ■強度試験に代えて品質証明書（ミルシート）の確認を行なう。 □D19以上の鉄筋をガス圧接する場合は日本鉄筋接手協会の「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。 ■鉄筋の加工、組立ては別紙「鉄筋コンクリート配筋標準図」による。	SD295A D10～D16 SD345 D19～ 溶接金網 6φ×150×150	■重ね手 ■重ね継手 □重ね継手 □ガス圧接 ■重ね継手			・溶接材料	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	
・支持層位置	□杭基礎 □摩擦杭 □一般支持杭 □認定杭底面固め支持杭							・溶接有効長さ	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	
・調査水位	■砕石（再生クラッシュランRC-40） □切込砕石 □川砂利 □場内敷き均し ■場内指定場所堆積 □場外処分							・ボルトの締付け	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	
・基礎支持形式	■直接基礎 ■布基礎 □ベタ基礎 □独立基礎 □地盤改良 □表層改良 □粉体セメント系固化工材位置混合処理工法（□免震抑制型 □六価クロム低排出型） □柱状改良 □スラリー状セメント系固化工材位置混合処理工法（ソイルセメントコラム） □杭基礎 □摩擦杭 □一般支持杭 □認定杭底面固め支持杭 ■砕石（再生クラッシュランRC-40） □切込砕石 □川砂利 □場内敷き均し ■場内指定場所堆積 □場外処分							・溶接の種類	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	
・地業材料	■砕石（再生クラッシュランRC-40） □切込砕石 □川砂利 □場内敷き均し ■場内指定場所堆積 □場外処分							・溶接材料	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	
・残土処分	■砕石（再生クラッシュランRC-40） □切込砕石 □川砂利 □場内敷き均し ■場内指定場所堆積 □場外処分							・溶接有効長さ	■全国鋼構工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得 □Ⅰ級建築士 □2級建築士 ■Ⅰ級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作管理による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	

・構造図に記載されている事項は、本標準図に優先して適用する。 ・構造図及び本標準図に記載されていない事項は、工事監理者と協議を行なう。					2．組立 ・継ぎ手・定着長さ 継手の長さ 25mmの幅 <table><tr><td>コンクリートの設計基準強度</td><td>16 18kN/mm2</td><td>21 24kN/mm2</td></tr><tr><td>継ぎ手長さ及び重要な部分の定着長さ</td><td>45d</td><td>40d</td></tr><tr><td>一般部の定着長さ</td><td>40d</td><td>35d</td></tr><tr><td>溶接金網の継ぎ手</td><td>1節半以上</td><td>1節半以上</td></tr></table> ・継ぎ手位置は応力に小さい位置に設ける事 ・隣接する継ぎ手位置は下記の何れかとする。 0.5L 1.5L以上 ・継ぎ手位置 (布基礎の場合) 柱位置 上端主筋継ぎ手位置 柱位置 下端主筋継ぎ手位置 L/4 L/4 L/2 L/4 L/4 L (=1800など) ・梁主筋の範囲 (端部・中央部) 端部 中央 端部 柱位置 20d 柱位置 15d 15d L/4 L/4 L/2 L/4 L/4 L ・かぶり厚さ <table><tr><td>単位：mm</td><td>最小かぶり厚さ</td><td>設計かぶり厚さ</td></tr><tr><td>布 基 礎</td><td></td><td></td></tr><tr><td>基礎梁部</td><td>40</td><td>50以上</td></tr><tr><td>フーチング部</td><td>60</td><td>70以上</td></tr><tr><td>土間コンクリート</td><td></td><td></td></tr><tr><td>上面</td><td>30</td><td>40以上</td></tr><tr><td>下面</td><td>40</td><td>50以上</td></tr></table> ・かぶり厚さに捨てコンクリートは含まない。 ・鉄筋のあき あき 間 隔 3．各種補強 ・増打ち補強 300 補強筋 補強筋 補強筋 あばら補強筋 300 あばら補強筋 補強筋 腹筋移動 ・補強筋を入れるのは、増打ち幅70mm以上の場合とする。 ・補強筋は梁主筋の1サイズ落しかつD16以上とする。 ・追加あばら補強筋は、あばら筋と同径、同ピッチとする。 ・梁幅が400以上の梁の梁成方向に増打ちする場合は補強筋を3本とする。 ・梁段差部定着 基礎上端 主筋 基礎上端 35d 35d ※ 主筋 主筋 ※定着長35d確保が不可能の場合は、先端フック付きとし、下端主筋まで定着させる。 ・主筋に段差のある場合 基礎上端 主筋 基礎上端 35d 主筋 主筋 ・主筋を通す場合 (フカシ部) 増打ちコン上端 補強筋 基礎上端 300 主筋 あばら補強筋 (あばら筋と同径・同ピッチ) 先端フック無し A 主筋 補強筋 あばら補強筋 先端フック無し 基礎上端 300 主筋 あばら筋 先端フック有り A断面 主筋 ・床下換気口補強 主筋 補強筋 35d 35d W=400程度 H≦180 4．梁貫通補強 ・貫通位置 D/3 D/3 D/3 柱位置 梁貫通の望ましい位置 柱位置 L/4 L/2 L/4 L (=1800など) ・貫通孔の間隔 φ1 φ2 φ1+φ2×3/2以上 貫通孔が連続して間隔がとれない場合は、工事監理者と協議を行なうこと。 ・貫通孔の補強 <table><tr><td>80≦φ≦100</td><td></td></tr><tr><td>・単配筋の場合</td><td></td></tr><tr><td>折 筋 2-D13</td><td></td></tr><tr><td>縦 筋 ST D10@100</td><td> </td></tr><tr><td>・複配筋の場合</td><td></td></tr><tr><td>折 筋 2-(2-D13)</td><td></td></tr><tr><td>縦 筋 ST2-D10@100</td><td> </td></tr><tr><td>100<φ≦150</td><td></td></tr><tr><td>・単配筋の場合</td><td></td></tr><tr><td>折 筋 2-D13</td><td></td></tr><tr><td>縦 筋 ST D10@100</td><td> </td></tr><tr><td>横 筋 2-D13</td><td> </td></tr><tr><td>・複配筋の場合</td><td></td></tr><tr><td>折 筋 2-(2-D13)</td><td></td></tr><tr><td>縦 筋 ST2-D10@100</td><td> </td></tr><tr><td>横 筋 2-(2-D13)</td><td> </td></tr><tr><td>150<φ≦250</td><td></td></tr><tr><td>・単配筋の場合</td><td></td></tr><tr><td>斜 筋 4-D13</td><td></td></tr><tr><td>縦 筋 ST D10@100</td><td> </td></tr><tr><td>横 筋 2-D13</td><td> </td></tr><tr><td>・複配筋の場合</td><td></td></tr><tr><td>斜 筋 2-(4-D13)</td><td></td></tr><tr><td>縦 筋 ST2-D10@100</td><td> </td></tr><tr><td>横 筋 2-(2-D13)</td><td> </td></tr></table> ・ただし、φ≦梁成/3とする。 ・250φ以上の開口部を設ける場合は、特記による。 ・認定品を使用できるのは複配筋の場合のみとし、仕様はメーカーの仕様による。					コンクリートの設計基準強度	16 18kN/mm2	21 24kN/mm2	継ぎ手長さ及び重要な部分の定着長さ	45d	40d	一般部の定着長さ	40d	35d	溶接金網の継ぎ手	1節半以上	1節半以上	単位：mm	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ	布 基 礎			基礎梁部	40	50以上	フーチング部	60	70以上	土間コンクリート			上面	30	40以上	下面	40	50以上	80≦φ≦100		・単配筋の場合		折 筋 2-D13		縦 筋 ST D10@100		・複配筋の場合		折 筋 2-(2-D13)		縦 筋 ST2-D10@100		100<φ≦150		・単配筋の場合		折 筋 2-D13		縦 筋 ST D10@100		横 筋 2-D13		・複配筋の場合		折 筋 2-(2-D13)		縦 筋 ST2-D10@100		横 筋 2-(2-D13)		150<φ≦250		・単配筋の場合		斜 筋 4-D13		縦 筋 ST D10@100		横 筋 2-D13		・複配筋の場合		斜 筋 2-(4-D13)		縦 筋 ST2-D10@100		横 筋 2-(2-D13)	
コンクリートの設計基準強度	16 18kN/mm2	21 24kN/mm2																																																																																										
継ぎ手長さ及び重要な部分の定着長さ	45d	40d																																																																																										
一般部の定着長さ	40d	35d																																																																																										
溶接金網の継ぎ手	1節半以上	1節半以上																																																																																										
単位：mm	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ																																																																																										
布 基 礎																																																																																												
基礎梁部	40	50以上																																																																																										
フーチング部	60	70以上																																																																																										
土間コンクリート																																																																																												
上面	30	40以上																																																																																										
下面	40	50以上																																																																																										
80≦φ≦100																																																																																												
・単配筋の場合																																																																																												
折 筋 2-D13																																																																																												
縦 筋 ST D10@100																																																																																												
・複配筋の場合																																																																																												
折 筋 2-(2-D13)																																																																																												
縦 筋 ST2-D10@100																																																																																												
100<φ≦150																																																																																												
・単配筋の場合																																																																																												
折 筋 2-D13																																																																																												
縦 筋 ST D10@100																																																																																												
横 筋 2-D13																																																																																												
・複配筋の場合																																																																																												
折 筋 2-(2-D13)																																																																																												
縦 筋 ST2-D10@100																																																																																												
横 筋 2-(2-D13)																																																																																												
150<φ≦250																																																																																												
・単配筋の場合																																																																																												
斜 筋 4-D13																																																																																												
縦 筋 ST D10@100																																																																																												
横 筋 2-D13																																																																																												
・複配筋の場合																																																																																												
斜 筋 2-(4-D13)																																																																																												
縦 筋 ST2-D10@100																																																																																												
横 筋 2-(2-D13)																																																																																												



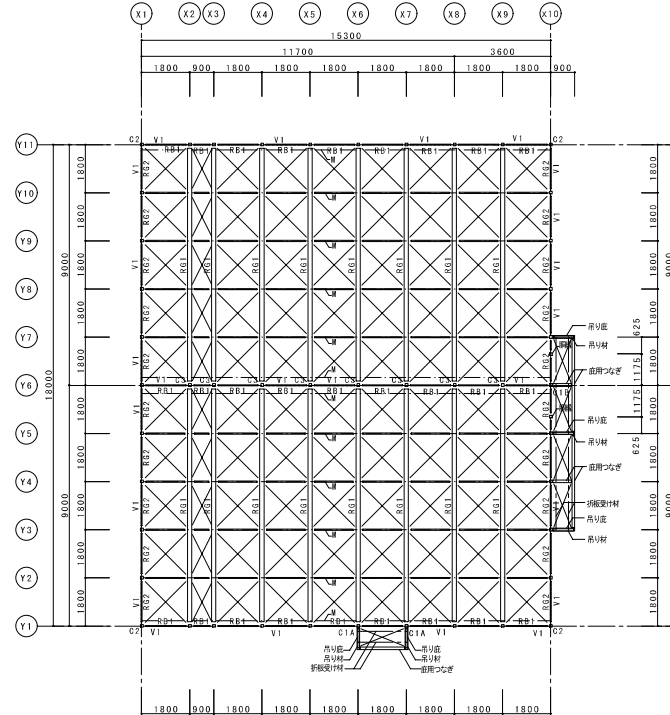
基礎平面図 S=1/100

※ 柱上等の詳細を省略のうえ位置決めのこと

凡例

アンカーボルトをしろす

基礎(柱)落とし部分をしめす



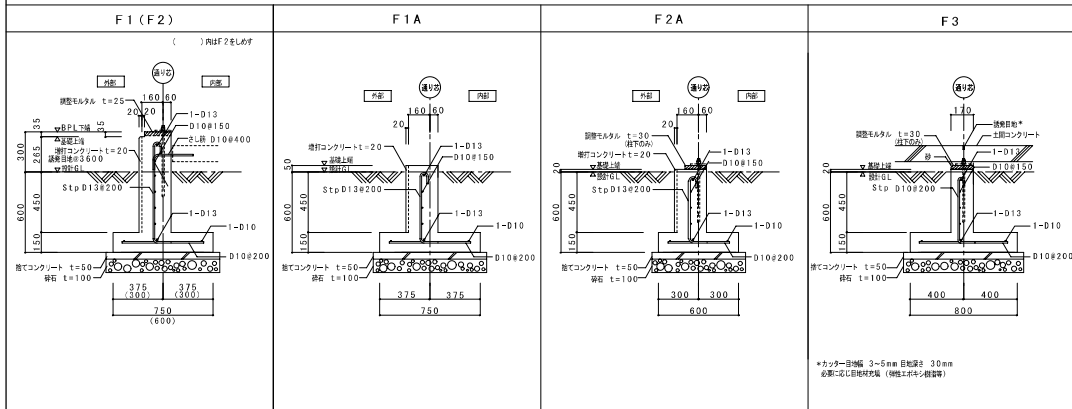
梁平面図 S=1/100

- 特記なき場合は下記による
- 柱番号は C1 とする
 - 水平ブレースは H1 とする

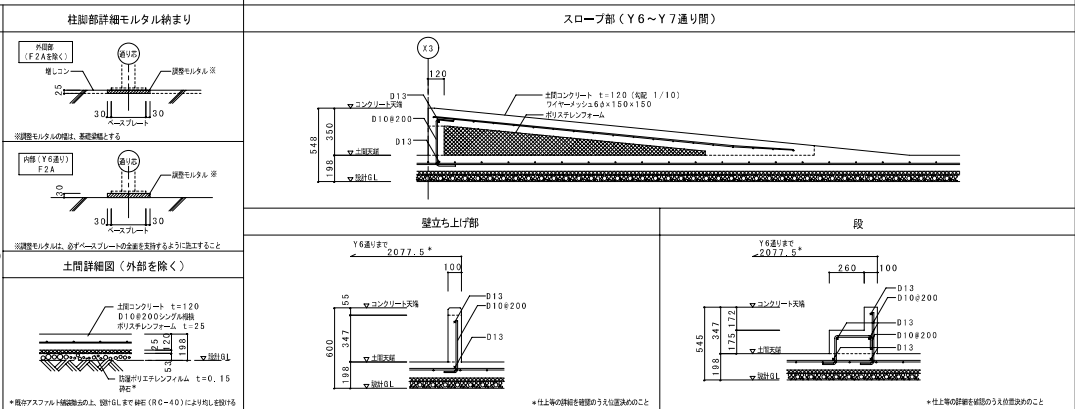
凡例

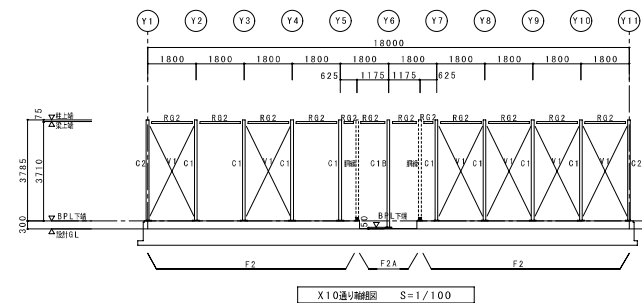
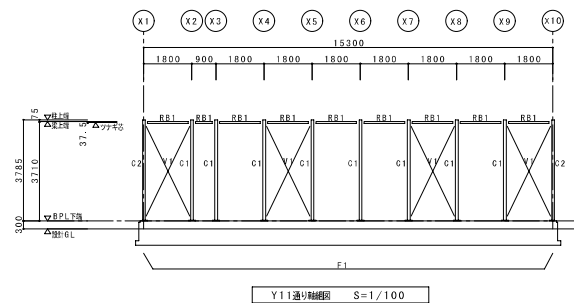
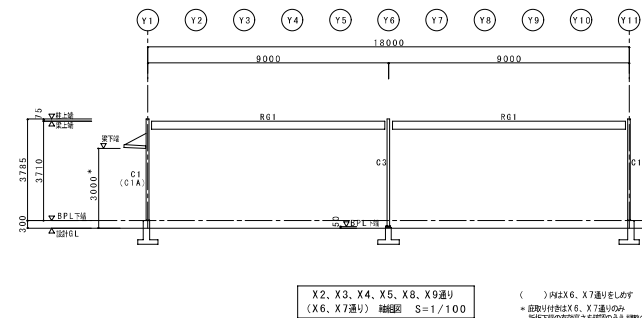
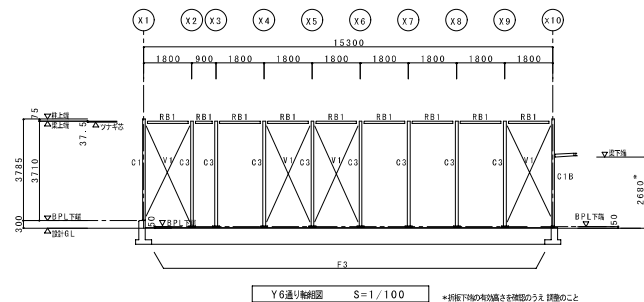
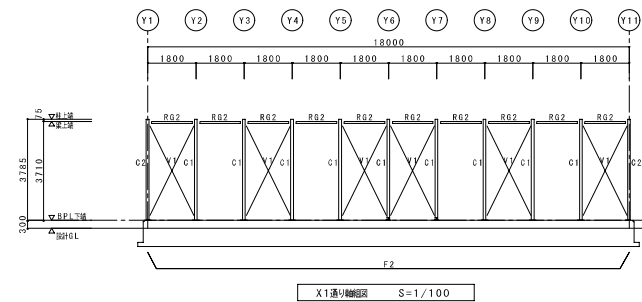
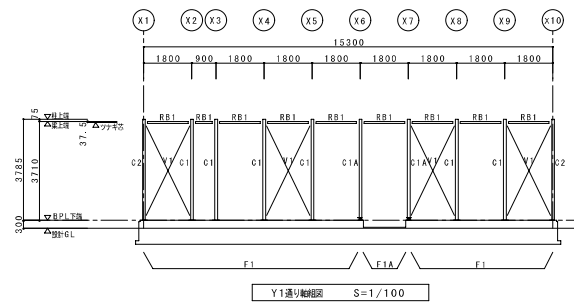
- 壁ブレース (V1) をしろす
- つなぎ材 R B2 をしろす
- 留置 M をしろす

基礎断面リスト S=1:20



土間 部分詳細図 (外部を除く) S=1/20





名称	C1・C1B・C3	C1A・鋼線	C2	RG1	RG2・RB1	RB2	吊り底・折板型付材					
断面												
細長比	C1:λ=95 C1B, C3:λ=101	λ=95	λ=95	H=300x150x6, 5x9	SS400	C-75x45x15x2, 3	SSC400	C-60x30x10x2, 3	SSC400	a: H=100x100x6x8	SS400	
部材	□-100x100x3, 2	STKR400	柱: □-100x100x3, 2	STKR400	□-100x100x3, 2	STKR400				b: L=65x65x6	SS400	
			柱脚: H=100x100x6x8	SS400						c: H=100x100x6x8	SS400	
柱脚	B, PL-16	SN490B	B, PL-16	SN490B	B, PL-16	SN490B	G, PL-9, 0	SS400	G, PL-4, 5	G, PL-4, 5	G, PL-6, 0	
	A, BOLT2-M16 L=320	SNR400B	A, BOLT2-M16 L=320	SNR400B	A, BOLT2-M16 L=320	SNR400B	BOLT3-M16	強度区分: 4, 8	BOLT2-M12	強度区分: 4, 8	BOLT2-M16	強度区分: 4, 8
名称	M	V1	H1	折板	V1ガセットプレート取付要項 S=1/10		アンカーボルト詳細 S=1/20					
断面仕口												
部材	C-75x45x15x2, 3	SSC400	M16 (ターンバックル機能)	SNR400B	M10 (ターンバックル機能)	SS400	ハセ二重折板 t=0, 6 H=85					
仕口			G, PL-6	SS400	G, PL-4, 5	SS400						
			補強PL-9x180x80	SS400								
	BOLT2-M12	強度区分: 4, 8	BOLT1-M16	強度区分: 10, 9	BOLT1-M16	強度区分: 4, 8						

